留学生レポート・留学生レポート

留学生の友達と（真ん中）

a foreign student

日本に来て

住谷 マルシア 美智子
（ブラジル・サンパウロ大学）

from Brazil

奈良に初めて訪れたのは五年前のことです。その時は研修旅行で、急いで興福寺、大仏殿と春日大社を見学しました。

ブラジルでは七歳の時から日本語を習っていましたが、日本の歴史に関しては三年前、大学に入学してから初めて勉強することが出来ました。先生の説明に出てくる場所はほとんど、あの時の研修旅行で見学したところなのに、私の知識不足で見逃したことがあったため、今度、留学するチャンスがあれば絶対歴史の古い所へ行きたいと心の中に決めました。

奈良は歴史が古くて、自然に恵まれていて、シカやイノシシ、そしてタヌキなど、愉快な友達が大学のキャンパスにちょこちょこ顔を見せに来ることだけでもとても楽しいです。

先生方は身近なところにいて、いつでも日本語や日本の習慣に関してのどんな簡単な質問でもやさしく説明してくださいました。

「百聞は一見に如かず」という表現を習いました。そのとおり、私は、いろいろな祭りや行事、そしていろいろな人とも出会って毎日、新しい日本を発見しています。

十月に来た時は秋で木の葉が少しずつ紅色に変わって行くのを一生懸命、写真に撮りました。冬は雪が降るのがとても待ち遠しかったが、寒くて寝る時もニット帽をかぶらないと寝むれませんでした。春は桜の木の下で日本人の学生達と飲み会をし、その桜の花が散った時はちょっと寂しい思いもしました。

そして今の夏の暑さを感じて、なぜこの季節にお祭りが多いのかが、よくわかりました。日本の季節の変化の激しさを体験して、日本人はなぜそれにこだわるのかが少しわかってきました。

私はブラジル日系人の二世です。家族や、日本語学校から、ある程度日本文化を受け継いでいます。でも育てられた国の文化の影響も大きく、日本の日常的な習慣でもいろいろとわからないということに気づいて、日本の文化や歴史をもっと知りたくなりました。そして自分の国の文化も、もっと意識して見つめなおさなければならないとわかりました。

奈良での留学は、後わずか二ヶ月になりましたが、私はここで体験したこと、感じたこと、出会った人達、勉強したことはずっと大切にして行きたいと思っています。

奈良公園にて